

■学校経営のポイント

校内研究の効果的な実施

小島 宏

ほとんどの学校が校内研究に取り組み、授業を通して自校の課題解決に向けて努力をしている。しかしながらマンネリ化や、「労多くして……」という状況に悩んでいる学校が少なくない。

現時点での見直しのねらい

9月の時点で校内研究の運営を見直すねらいとして、次の2つの意義があると考えられる。第一は、前半の校内研究の中間評価をし、後半の充実を目指して軌道修正をすることである。第二は、十分に機能していない校内研究を改善していくための次年度への布石である。自校は、いずれのねらいで見直したらよいものであろうか。

研究テーマの確認

まず、何のための校内研究か、研究テーマ及びサブテーマについて確認したい。その際、大切な視点は、「自校のよい点を一層よくする」「課題を見付け、原因を探り、解決し、よりよく改善する」「新しい視点から開発的研究をする」のいずれを目指しているかを明確にすることである。

美文調の研究テーマよりも、実態と目標に基づいた子供のよりよい成長を実現するものでありたい。

研究仮説の吟味

研究仮説が、単なる願望「話し合い活動を充実させれば、理解が深まるであろう」や一般論「問題解決学習を実施すれば思考力が高まる」であっては、研究過程や成果が実証できないため、研究テーマの実現にはつながらない。

研究仮説「(1)このような実態がある。(2)そこで、このようなことを実施すれば、解決でき、(3)このように実現(改善)できる」を具体的に設けて、実証的に研究を進めることが重要である。

校内研究の運営

校内研究の運営を研究主任に丸投げせず、校長や

教頭が関与し、例えば次のような事柄について、適時適切な指導・支援を行う必要がある。

〈指導案の作成と検討〉

提案事項の検討や指導案の作成・検討段階にも、教員の主体性を勘案しながらかわり、また、指導案と提案事項は前日までに配布・明示を実行する。

〈視点に基づいた授業観察とメモ〉

観察視点(提案事項)に基づいて授業を観察し、授業者と子供の事実を根拠に、「(1)よい点、(2)課題と改善点、(3)新しい提案」などのメモを奨励する。

〈協議会の充実〉

観察に基づいて、質問や上記「(1)よい点、(2)課題と改善点、(3)新しい提案」などについて、検証的に協議を進めるようにする。KJ法、ワークショップ型など、全員参加の協議会になるよう工夫する。また、外部講師には事前に連絡をして、テーマや提案事項に対する指導、テーマを解明する助言などが得られるようにする。

〈研究協議の共有化と活用〉

授業と研究協議の内容を明確・簡潔にまとめ、校内研究便りなどにして、共有化する。そして、以降の授業研究に反映させ、積み上げていくことが重要である。近隣校と交換したり、保護者にも配布したりするなどして、外部の意見等も収集したい。

校内研究はOJTの場

授業と協議会の内容を日常の授業に取り入れて追試をする態度も大切である。校内研究はOJTの一環である。たとえ、教科が異なっても、研究の中のよい点、改善策、新しい提案を積極的に取り入れたり、ヒントにして自分の授業を工夫したりすることこそが校内研究の目的であり成果である。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●学校管理職の「誰にも相談できない悩み」にずばり回答！

『寺崎千秋の学校経営相談室』

【著】寺崎千秋(元全国連合小学校長会会長) A5判・168頁／定価1,995円